

# 厚生労働省母子保健指導者養成研修研修3

## ④事例紹介 性と健康の相談センターにおける 特定妊婦支援の実際



特定非営利活動法人MCサポートセンターみっくみえ

代表 松岡典子(助産師)

三重県委託事業: 予期せぬ妊娠相談「妊娠SOSみえ」実施団体



# 女性健康支援センター事業

R3予算案：1.9億円（R2予算額：2.2億円）

## ○事業の目的

思春期から更年期に至る女性を対象とし、各ライフステージに応じた身体的・精神的な悩みに関する相談指導や、相談指導を行う相談員の研修を実施し、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図ることを目的とする。

## ○対象者

思春期、妊娠、出産、更年期、高齢期等の各ライフステージに応じた相談を希望する者  
(不妊相談、予期せぬ妊娠、メンタルヘルスケア、性感染症の対応を含む)



## ○事業内容

- (1) 身体的、精神的な悩みを有する女性に対する相談指導
- (2) 相談指導を行う相談員の研修養成
- (3) ~~相談体制の向上に関する検討会の設置~~
- (4) 妊娠に悩む者に対する専任相談員の配置
- (5) (特に妊娠に悩む者)が、女性健康支援センターの所在等を容易に把握することができるよう、その所在地及び連絡先を

記載したリーフレット等を作成し、対象者が訪れやすい店舗等で配布する等広報活動を積極的に実施

(6) 特定妊婦等に対する産科受診等支援

(7) 若年妊婦等に対するSNSやアウトリーチによる相談支援、緊急一時的な居場所の確保

~~(8) 出生前遺伝学的検査(NIPT)を受けた妊婦等への相談支援体制の整備(R3新規)~~

## ○実施担当者・・・医師、保健師又は助産師等

## ○実施場所(実施主体:都道府県・指定都市・中核市)

全国84カ所(令和2年8月1日時点) ※自治体単独14カ所

47都道府県、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市、八戸市、盛岡市、山形市、いわき市、福島市、水戸市、川越市、川口市、船橋市、八王子市、横須賀市、金沢市、甲府市、長野市、豊橋市、奈良市、鳥取市、倉敷市、久留米市、宮崎市

## ○補助率等 補助率：1/2 R3基準額(案)：158,700円(月額) 若年妊婦等に対する取組の強化に係る加算：172,100円(月額)

## ○相談実績 平成30年度：74,358件(内訳：電話43,979件、面接21,110件、メール8,252件、その他1,017件)

## ○相談内容

- ・女性の心身に関する相談(21,389件)
- ・妊娠・避妊に関する相談(14,531件)
- ・メンタルケア(14,286件)
- ・不妊に関する相談(12,352件)
- ・思春期の健康相談(7,825件)
- ・性感染症等(805件)
- ・婦人科疾患・更年期障害(569件)

# 「妊娠SOSみえ」の立ち上げから現在までの経緯

平成24年（2012） 5月三重県健康福祉部

子ども・家庭局子育て支援課より事業委託の  
依頼

～関係機関間の連携体制の構築（5か月間）

医療・福祉・母子保健・教育・司法等との  
ネットワーク構築

H24年11月～ 電話相談開始後10年目となる

代表者会議・運営会議・ケース検討会議の設置

R2年6月～ SNSによる相談開始

# 「妊娠SOSみえ」相談 窓口の役割と特徴(窓口の専門性の意義)

## (役割)

予期しない妊娠をした女性や、危機的状況にある妊婦に対し、その背景を理解したうえで女性を受け止め、その状況で相談してくれたことを労い、その女性に必要な情報提供をするとともに、自己決定を支え、その決定に沿って女性に必要な支援が受けられるように地域の関係機関とつなぎ、しいては0日目の虐待死の予防と、その後の母親の自尊心の回復や、児の健全育成を担う。

## ◆「妊娠SOSみえ」の特徴

①三重県との協働事業で、特定妊婦とされる対象者の相談を受け、地域の医療・福祉・保健・法的機関などと構築されたネットワークにより、相談対応・支援を行っている。

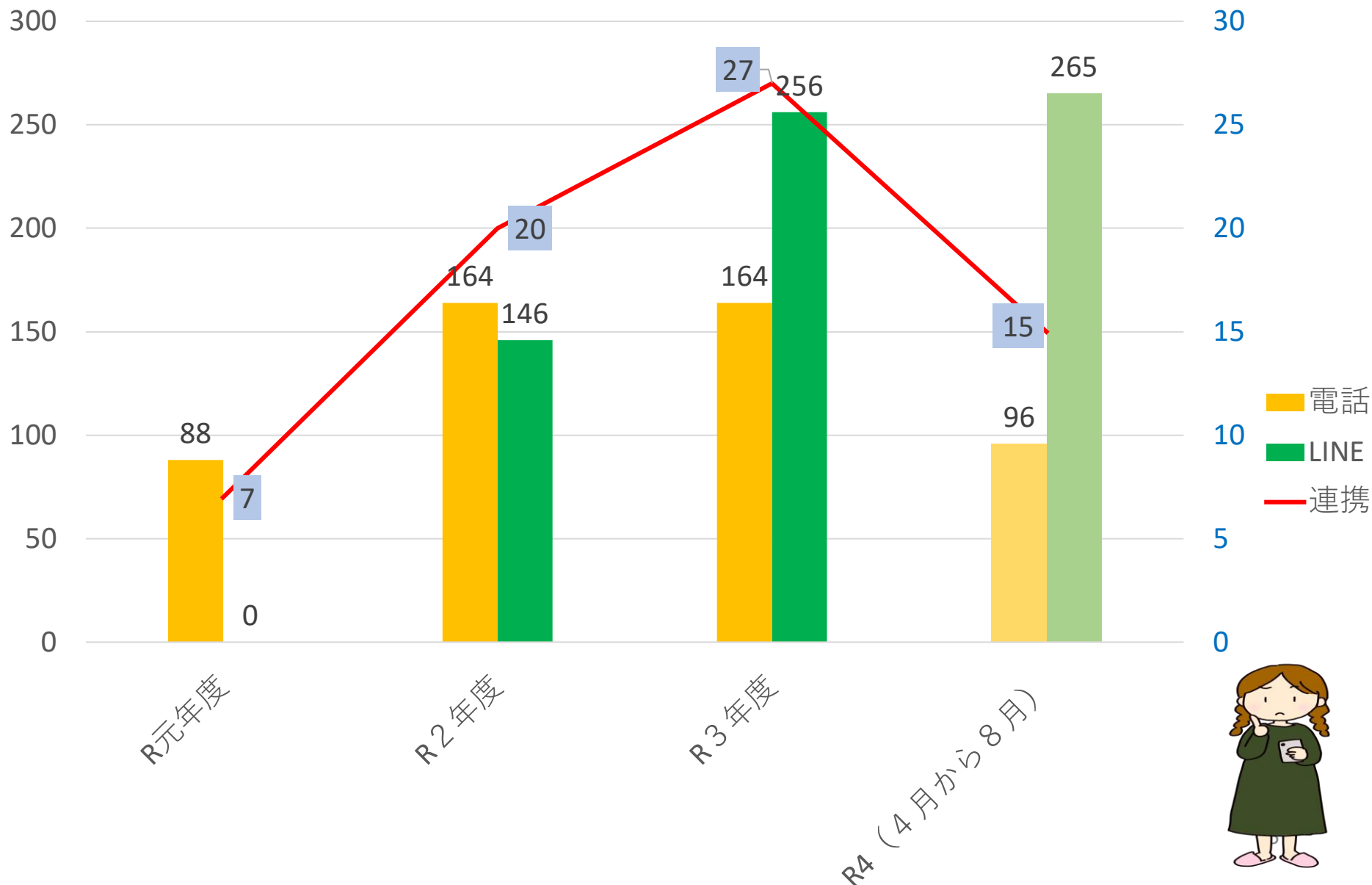
②官民それぞれの特性を活かした役割分担の中で必要な支援を行っている。相互の信頼関係が基盤

③SNS(LINE)相談による、相談に至りにくい若者などをターゲットにした相談対応(電話とSNSの両面からの相談と支援)~ツールの使い分けの必要性(他の窓口との連携:DV相談・性暴力相談)

④相談から確実な支援へのつなぎ

「特定妊婦」に対して地域支援が届くようなつなぎをしている。また行政のみならず民間機関との連携で妊婦が放置されない状況を作っている

# 「妊娠SOSみえ」の相談概況 令和元年以降のみ



# 相談から連携そして支援へ



SOS相談

窓口から地域への連携ケース  
= 特定妊婦（であることが多い）

未受診・母子手帳未発行・若年  
・性被害・貧困等

連携先例

産婦人科医療機関・母子保健窓口・児童相談所・司法・性犯罪被害者支援センター・民間支援団体等

<支援実績>  
連携ケース実数R3年:22件  
R4年4月~8月:計15件  
(R4年アウトリーチ件数 3件)

フィードバック・継続相談・要対協（役割分担）



# ◆ 事例紹介 特定妊婦の支援の実際/相談から地域支援へのつながりを重視したケース例(県内外含む)

	年代	背景・特記事項	連携先とその後の情報
ケース1 (電話)	20代	<b>未受診</b> 精神の課題 貧困 家庭崩壊 妊娠34週	県・市役所(母子保健)⇒産科医療機関(同行支援)無事出産(支援要請2日後) 窓口⇒MSWへ情報提供
ケース2 (他機関からの支援要請・電話)	20代	<b>未受診</b> 生保受給 施設入所履歴あり(トイレで出産後の対応～救急車要請)	児童相談所⇒警察 救急隊⇒産科医療機関⇒情報提供を受ける 県 警察・成年後見人センター等への情報提供要請あり
ケース3 (LINE)	30代	<b>未受診</b> 未婚 妊娠15週程度 無職 (貧困・借金あり)産んで育てたい	県・市役所(母子保健・福祉部門)⇒産科医療機関(同行支援)⇒その後入籍 妊娠継続中継続フォロー中
ケース4 (LINE)	20代	<b>未受診</b> 妊娠26週程度 「誰にも知られず子を産みたい・でも育てたくはない」	産科医療機関⇒受診 合併症あり、産科医から本人説得後親に連絡 手術歴ありその医療機関へ紹介 その管轄の児相から児を特別養子縁組へ

# ケースから見た未受診の背景とリスク

## ◆背景（多くのケースが重複）

=妊娠葛藤と妊娠の放置の背景

- ✓ 未婚・相手がわからない・家族関係の崩壊・コミュニケーションの障害
- ・児童福祉施設の入所歴・喫煙（妊娠後期も継続・不安定な雇用・経済的困窮
- ・社会的孤立・家族内の孤立・性産業従事 など

⇒これらの**結果**、未受診（妊娠の放置）が起きていると考えられる

これらの背景を抱えると次に起こること⇒SOSを出さない 人を頼ることをしない 一方で不確かな情報を信じる（危うい声がけを信じる）

※やっとながった支援機関とも関係が切れる可能性がある

- ✓ 児のリスク：・感染症含む管理もできていないので感染症の罹患 ・喫煙による成長の遅れ（低出生体重）・早産 等々
- ✓ 母親の周産期のリスク：・正常な妊娠かどうか ・感染症含むチェックがなされていない（治療が遅れて状況の悪化がみられる） ・未受診で出産を希望してもなかなか出産できる病院が見つからない ・健診未受診（身体的な管理が出来ていない）による合併症の見逃しのリスク 等々

⇒社会的・福祉的リスクと医療的リスク～負のスパイラル



# 「妊娠SOS」窓口が特定妊婦を地域につなぐための基本姿勢と役割

- ◆ 労いと受け止め～困難な状況のなか相談者は「妊娠SOS」相談窓口につながったのだと理解して対応
- ◆ 窓口との関係を切らさない、でも依存関係も作らない対応
- ◆ 放置をさせない対応（アウトリーチもあり）そのためのタイミングを逃さない

## □ 役割：初期対応（相談と支援）

必要十分な、かつわかりやすい情報提供をすることで相談者に安心と適切な行動変容のきっかけをつくる

- ・リスク意識の醸成（ストレングスを活用）
- ・自己決定の後押し
- ・地域の社会資源との安心できる、確実なつなぎ

※母子の安全の確保へ



# 妊娠SOS窓口の新しい動き②

## ◎アウトリーチ

### <必要とした背景>

- 対象者が行政等の支援を拒否、しかし放置はできないケース（若年が多い）窓口とつながり次のステップを目指すことが有効と判断（安全の確認）
- アウトリーチでの支援が必要なケース～アウトリーチで支援することで状況が改善される⇒必要な支援を受けることができる⇒安全な出産と子育て期への安心なプロセスへ

### <アウトリーチなどの支援ができる背景>

- ◆市町の母子保健部門との実質的な連携
- ◆民間団体の活動資金援助
- ◆相談員の対応スキルの向上
- ◆未受診妊婦への支援制度

# まとめ

## 妊娠SOS相談窓口から支援へ

地域との連携のありかた（地域にぞむこと）

- SOS相談窓口で扱う相談者で妊娠継続をする場合の多くが特定妊婦の可能性あり（支援を受けた経験がない/人間関係で傷つき体験をしている）



- 窓口との連携⇒リスクの共有
- できるだけ速やかにニーズに沿った対応を！
- ⇒ 窓口と相談者の信頼関係を尊重：窓口の対応力の向上は必須
- きめ細やかな継続支援（背景を踏まえて…）
- 窓口と地域の相互の信頼関係の構築